

## 議事録

会議名	令和7年度第2回京田辺市総合教育会議
日時	令和8年3月12日(木)午前10時開会
場所	京田辺市役所4階403会議室
出席者	<p>(構成員)</p> <p>上村市長、山岡教育長、藤井教育長職務代理者、上村教育委員、伊東教育委員、塘教育委員</p> <p>(事務局)</p> <p>森田企画政策部長、富永企画政策部副部長、古谷企画調整室指導主幹(教育部副部長)、平岡企画調整室指導主幹(教育総務室担当課長)、志場企画調整室主査(教育総務室総務係長)、河本こども未来部長、内野こども未来部副部長、藤田保育幼稚園課長</p> <p>櫛田教育部長、片山教育指導監、南部こども・学校サポート室総括指導主事、田原学校教育課長、西村学校給食課長</p>
審議内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期京田辺市立幼稚園・保育所再編整備計画の策定について</li> <li>・京田辺市新しい学校づくりプランについて</li> </ul>

### ○議事

#### ・議 事 第2期京田辺市立幼稚園・保育所再編整備計画の策定について

**事務局** (資料に基づき説明)

**市 長** 共働きや核家族化の進行、地域コミュニティの希薄化が進む中、限られた人材で教育、保育を着実に進めるために再編は避けられない。地域ごとに拠点となるこども園を整備し、定員等を勘案しながら手立てすることが大切だと考える。

**教 育 長** 本市はこれまで9小学校のうち8小学校で隣に幼稚園を設置するなど、幼児教育に力を入れてきた。時代の流れや地域の状況などで幼稚園ニーズの減少は避けられないが、本市の幼児教育、保育は基礎がしっかりしており、こども園などに形は変わっても、今後も十分発展させることができると思う。市で実施している幼小接続カリキュラムには民間幼稚園にも参加していただいているが、今後、新たな法人などが幼児教育、保育に参入されたとしても、しっかりと連携し、着実に幼小接続を進めていくことが大事であると思う。こども園の現場からは、これまで幼稚園教諭と保育士は相容れないところがあったが、こども園への統合を機に今後の教育、保育の方向性を協議する中で、お互いから学ぶことが

非常に多かったという声を聴いた。再編、統合というマイナスイメージを持たれがちであるが、決してそんなことはない。

**教育委員** 他市と比べても京田辺市の幼稚園、保育所の質は高いが、その質の高さを維持するために、もっと保育者を採用していただきたい。家庭の力が落ちていることを前提に、それを保育の現場でカバーするという意識を持たないとこどもの成長は保障できない。幼小接続については、変わるべきは小学校の方だと考える。幼稚園、保育所は小学校と連携したいと思っているが、小学校の先生は時間的になかなか幼稚園、保育所に行くことができない。小学校側が、幼稚園、保育所でどんなことをやっているのか意識して、幼稚園、保育所との連携に努める必要があると考える。パブリックコメントの意見でも出ているが、市民は再編後の跡地がどう活用されるのか関心がある。検討を進められているとは思いますが、もっと情報発信していないと市に対して市民から不信感を持たれる。

**市長** 今年度、技師の確保を目的として、京都府南部の自治体にも声を掛けて大学で説明会を開催しようとした。実現できなかったが、来年度以降も保育士も含めてそういった取組を継続して検討したい。閉園後の跡地利用については、まず担当部署で活用方法を検討していただき、具体的なものがなければ、市全体の財産として活用方法を検討するという段階を踏むため、市民に早めに示すことは難しいが、こういった形で発信していくのが良いか検討したい。

**教育委員** 今年、学生が民間幼稚園の現場に行くという取組を行った。学生は未来の自分の職場を知りたいと思っている。そういった取組の効果を検証して次の取組に繋げることが大事である。

**教育委員** 最近、市町村でも職員の採用試験を年に数回実施される例が散見されるが、インターンシップから接続してボランティアで現場を体験していただくなどすればモチベーションが上がるのではないかと。教員についても教育実習だけでは中身を理解したことにはならない。現場を知ること得意欲も上がるし、自分の一生の仕事にしようという気持ちが芽生えるので、もっと市から働きかけるような取組を検討していただきたい。他の委員の意見にもあったが、大学から高校へ、高校から中学へ、先にいる立場の者から働きかけないとうまく連携できないのではないかと。

**教育長** 幼稚園の隣に小学校があった時代は、運動会、給食の体験などで連携できたがそれが難しくなった。小学校は、入学する可能性がある園児がいる

園に対して自校の教育を理解していただくよう努めなければならない時代に来ていると感じる。

**教育委員** 再編、統合というどうしてもマイナスイメージがあるが、京田辺市の幼児教育の良い部分を全ての園に波及させて、それをベースに教育活動を行っていただきたい。保護者にとっては、こどもを社会に出す初めての場所が就学前教育の現場なので、就学前教育について真剣に考えている保護者は多い。にもかかわらず、再編等の中身が分からないと、こどもを安心して預けにくいので、情報発信はしっかり行っていただきたい。各地域で、保護者が幼稚園、保育所、こども園のいずれかを選択することが可能な再編としていただきたい。

**教育委員** 現場からは長時間保育のニーズが非常に高まっているという声を聴く。昔は近所の方も含めて家族の誰かにこどもをみていただくことができたが、現在は、核家族化、共働きが増えたことなどから、各家庭の子育てに対する負担が増えている。こどもが安心、安全に幼少期を過ごせることが一番大事なので、市としてもそういった社会の流れを認識して、保護者の意識も変えていけるように、子育てする者にとってより良いまちにしていけたらと思う。

**市長** 引き続き、教育委員会と連携して、こどもが健やかに育つような環境づくりに努めたい。

## ○議事

### ・議事 京田辺市新しい学校づくりプランについて

**事務局** (資料に基づき説明)

**教育長** 令和8年度の当初予算については、小・中学校トイレのリニューアル、学校施設照明設備のLED化、普賢寺小学校のコモンルームの整備、校内教育支援センターの全校設置など十分配慮していただいた。今年度もタブレット端末の更新、小・中学校体育館等の空調設備整備などに予算を措置していただいたが、どれだけ予算を費やしたとしても、一番大事なのは人である。教職員の質の向上についてももしっかり取り組んでいきたい。

**教育委員** 留守家庭児童会の待機児童対策について、保護者の就労に関わる問題でもあり、早急に対応していただきたい。ラーニング・コモンズについて、単にICTを導入すれば良いのではなく、多様な学びのためにどういう教材が必要かなど考えて進めなければ、お金をかけても、教育力が上がらないということになりかねない。現場の教職員の意見も聴きながら、先進地を見学して良いところを取り入れるなどして進めていただきたい。中学校の教員が小学校に来て、人事交流を行うなどして小中接続を行ってはどうかと考える。現場の先生方は疲弊しており、それはこどもの教育に直結する問題なので、カウンセリングも含めてしっかり取り組んでいただきたい。

**教育委員** 学校選択制度を活用して他校区から培良中学校へ通学している生徒の保護者の話を聴いたが、小規模校なので安心して学ぶことができるなど評判が大変良い。大住中学校でも選択制度が始まるが、大規模校より小規模校が向いている子どもにとっては、個別最適な学びに繋がる取組でもあり、市全体で教育の場をつくる良い取組だと思う。今後も京田辺市の教育の指針をしっかりと持った上で、地域の特性を生かしてこの制度を十分活用していけたら良いと思う。

**教育委員** 普賢寺小学校でも、6年生の半数近くが培良中学校選択制度を希望されるという流れができています。小規模校で育った児童が大規模より小規模の中学校を希望される傾向があるのと、培良中学校を選択した生徒の保護者から良い評判を聴いて、少し遠いけど、培良中学校へ進学させたいと考える保護者が増えているものと思われ、本制度は成功していると評価できる。新しい学校づくりについて、学校によって特色、規模も異なるので、進めて行くにはアイデアが必要。どういう学習環境を整備すればより良い教育が実現できるのか、子どもや先生の意見もしっかり聴いて進めなければならない。その実現のためにも必要な予算措置をお願いしたい。

**教育委員** 京田辺市は教育にたくさんの予算を措置していただいているが、一つの市町で新築校舎を整備する財源を確保することは非常に困難である。複数の教室を合わせて広い空間をつくるのも難しい。今の教室空間で何ができるのか、時代に合わせた新しいスタイルをどう創造するかを考える必要がある。長期にわたり財源を確保する必要があるが、何から財源措置するか優先順位をしっかりと考えて、長期の計画性を持つことが大事である。私立と公立の一番大きな違いは施設であるが、新しい施設に魅力を感じる子ども、保護者は多いので、公立はそれに負けない教育の質をいかに確保していくかが大事である。財源確保は市長に協力していただく必要

があるが、内容は教育委員会が積極的に頑張っていないといけない。児童生徒数の偏在対策についても、偏在解消ではなく学校の特色づくりという前向きな発想でPRしていくことが大事だと考える。

**市長** 広い空間を利用したラーニング・コモンズなどの実現にあたっては、指導要領、生徒数なども勘案しながら実行性のある内容を検討する必要がある。委員の意見でもあったとおり、ラーニング・コモンズも整備すれば良いというものではない。同志社大学と連携して大学のあるまちである本市の特色をうまく生かして取り組んでいくことができればなお良い。学校施設も時代に合わせてアップデートしないといけない。教育委員会と連携して取組を進めていきたい。

**教育長** 普賢寺小学校に整備するコモンルームについては、放課後、土日は地域の方が活用できるようにすることも大切である。今後、学校施設は地域と連携してアップデートする必要がある。地域の方は、学校に足を踏み入れることは敷居が高いと感じておられ、地域の方に来ていただきやすくするためにも、来年度以降、コミュニティ・スクールの設置に向けた準備を進めていきたい。また、来年度は学校風土調査を実施する。学校のどこに魅力があり、どこに課題があるのか、地域と連携を進める上でどういう学校になれば良いのか、こどもが学校に行きたいという気持ちになるにはどうすれば良いのかなどについて、調査したい。

**市長** 引き続き学びの確保に努め、京田辺っ子らしいこどもを育てることに取り組んでいきたい。

～以上 散会～